

2017 年度長野県高等学校総合体育大会 第 46 回登山競技大会 講評

審査員長	島田嘉一			
副審査員長	河崎直茂			
審査員	宮島幸一	森下 暁	坂本侑哉	竹内一郎
	塩野入和彦	小西 透	宮澤 豊	半田敬一
	松本孝幸	大西英樹	三村 寛	西牧岳哉
	藤岡善弘	大西 浩	矢口文穂	酒井知之
	立木雅彦	浮須由実		

はじめに

今大会は中日に雷雨となり、競技の中断と再審査を余儀なくされました。そのため登山行動全体の時間や距離が短くなり、選手諸君の日頃のトレーニングの成果を十分に評価できず、申し訳なく思っています。またそのような状況の中で、突然の計画変更、長時間の待機をしてもらいましたが、諸君の落ち着いた行動と協力により、3日間の競技を無事に終えることができたことを感謝します。

はからずも今回示されたように、天候の急変、装備の不具合、体調不良、怪我、道迷いなど、一つ一つは対処ができることであったとしても、それらが積み重なることで、山での危険性は一気に増してしまいます。そうした危険性を最小限にとどめ、登山を安全で豊かなものにするためには、十分な体力と正しい知識、確かな技術が求められます。

今大会で手書き概念図を求めるのは、各自が事前にルートを確認し、危険箇所やペース配分を確認しておいてほしいからです。設営に時間制限をかけるのは、どんな天候でも短時間で確実にテントを設営し、命を支える安全な空間を確保できるようになってほしいからです。また今回から医療分野を知識審査に加えました。これも一人一人が怪我や病気に適切に対処できるだけでなく、事前にそうした事態を予測し、予防する知識を持ってほしいからです。

登山は、生涯にわたって続けられる魅力的なスポーツです。その登山を「誰かに連れて行ってもらう旅」にするのではなく、自らの意志で、自らの足で未踏の大地を歩み、自然がもつ豊かさや美しさを満喫する旅にしてほしい。そのための知識や技術、体力を、これからも本大会をとおして身につけていてほしいと願っています。

I. 体力 (25 点)

1. 総合体力 (15 点)

[コース] 戸隠キャンプ場～瑠璃山～戸隠キャンプ場

[規定時間] 男子 2 時間 30 分 女子 3 時間 00 分

[規定重量] 男子 50kg/チーム 女子 40kg/チーム

天候のため予定を変更して、コースを瑠璃山の往復とし、規定時間も登りだけの男子 2 時間 30 分、女子 3 時間 00 分としました。規定重量も軽かったため、全チームクリアすることができました。ただし、宿泊を伴う長期の山行を考えたときには体力的に不安なチームもありました。安全に登山をする基本は十分な体力です。身近な山でよいので登山経験を重ね、体力を涵養して、安全登山に努めてください。なお朝の計量については、2 日目 3 日目とも出だしが遅く、全チームの終了がスタート時

間直前となりました。早めに準備，計量を済ませ，落ち着いて競技を開始できるよう，次年度以降協力してください。

2. 特別体力（10点）

〔設定区間〕 1610mゲレンデ合流地点－瑠璃山山頂のリフト降り場

〔規定時間〕 男子 10分 女子 15分

距離が短く，制限時間があまり厳しくないようでした。どのチームも良い成績でした。次年度以降はもう少し厳しくなると思われますので，日頃のトレーニングに心掛けてください。

II. 歩行（12点）

〔審査項目〕 歩行バランス・チームワーク・パッキングの状態・山行に適した服装

チームで一体となって行動できていないパーティーがありました。特に斜面の傾斜が変わるところで先頭が先行し，個々の間隔が開いてしまうということがありました。チームとして行動する意識が必要です。

またタオルを首からぶら下げている選手や，手に何かを持ち歩く選手，メインザックの外に荷物を付けている選手もいました。危険防止の観点からこのようなことは避けてください。タオルを頭に巻いているチームもありましたが，必ず帽子を着用するようにしてください。

また，歩いているうちに同一チーム内で2列になる場面を見かけました。隊列を乱さないという観点から，1列で歩行するように心がけてください。

III. 地形（9点）

〔定 点〕 1カ所 1.5点とし，6地点設置

今回も，ポイントは分岐・屈曲・傾斜転換点といった，現在地を特定するのに必要な根拠を得やすいところに設置しました。

最も減点が多かったのは傾斜転換点に置かれたポイントでした。現在地の把握とともに，行動中の体力的な配分を考えるうえで重要な点であるので，等高線の密度の変化と登山道上の傾斜の変化には常に注意を払ってください。

一方で顕著な屈曲，分岐等の見落としも見られました。これらは重大な道迷いを引き起こす原因にもなり得ます。日ごろの山行でも，登山道上の目印になるものを地図上でもきちんと確認しながら歩くようにしてください。

なお競技地図にポイントを記入する場合には，事前に示された例に倣って，1cm程度の1本の線を登山道と直角に交わるように，わかりやすく記入してください。線が斜めになっていたり，二重になっていたり，太かったり，著しく短かったりすると，正確な評価ができない場合があります。

IV. 装備（10点）

1. 個人装備（6点）

〔審査品目〕 コンパス・非常食・ナイフ・ライター・計画書・防寒具

いくつかのチームで，方位を示すだけのコンパスが見られました。磁北線をもとに方角を地図上で確認するには，登山用のコンパスが不可欠です。そのようなコンパスを用意するとともに，使用にも慣れてほしいと思います。

非常食については，「非常」食の意味まで考えて，行動食等とは別にパッキングしてください。ま

た栄養価については、1000 キロカロリー以上あることが求められます。用意する非常食の栄養価を意識づけるためにも、準備の際に個々のパッケージで確認したうえで、計画書に記載してください。

2. 共同装備（4点）

[審査品目] コッヘル・ツェルト・医薬品・裁縫用具

装備の分担把握については、各チーム明確でありよかったですと思います。医薬品については、使用頻度が低く確認を怠りがちになります。使用期限が切れたものは医薬品として使用することができないので、山行毎にチェックして、万が一に備えるようにしてください。

V. 生活技術（10点）

[観 点] チームワーク・装備の扱い・ペグと張り綱・安全な作業・テント内の整理

昨年度の講評をしっかりと読んできている学校が多く、記載されている内容に関しては改善が見られました。しかし、それ以外の基本的なこと（テントを張る手順、調理の手順）ができていないケースがありました。

1. 設営（5点）

テントを張る際の、「テントを立て、本体をペグで止め、次にフライを張り、ガイラインを固定する」という手順を再確認してください。ペグでテントを固定する前に荷物を入れたために、テント全体のバランスが崩れるチームがありました。またテントを立てた後に、ペグで固定することなく全員がテントから離れるチームもありました。風等でテントを失うことは生命の危機に直結します。今後気を付けてください。

設営時に、フライを張る前に靴を外に脱ぎすてたまま中に入る、逆に靴を履いたままテントに入る姿も見られたので、注意してください。

2. 炊事（5点）

[観 点] 手順と手際・火器使用時の安全・コンロと風防・食糧計画・ゴミと衛生

材料や鍋を地面に置いてから、衛生シートを敷く学校が見られました。外で調理を行う際の手順は、「まず衛生シートを敷く。その上に鍋やまな板などの道具、調理が必要な材料を置く。少し離れたところでコンロの固定台を床に置く。材料が入った鍋をコンロにかける。料理が出来上がった鍋をコンロ台やベニヤ板等の熱に強い板の上に置く。料理を分ける。」という手順を再確認してください。

火器の取り扱いの際に、熱に弱い化繊の手袋を使っているチームがありました。熱で溶けると熱傷を負う危険があるので、今後使用しないようにしてください。指切りタイプのもは、指先まで保護できないので不適切です。綿の軍手が最適と考えます。また衛生上好ましくないもので、登山中に使用しているものとは別のものを使用するようにしてください。

調理計画の内容と実際に調理しているものの確認では、ほとんどの学校が問題ありませんでした。ただし、分量や分担者の名前、カロリー数について未記載のものが多くありました。必要な情報は計画書に明記するようにしてください。また買い出しの関係で、当初の計画と数量や品目が異なる場合には、計画書の提出前に訂正し、正しい内容のものを提出するようにしてください。

例年よく見られることですが、米を各自で分散して持ってきている学校がありました。食事ごとに、いつの食事かを袋等に明記（〇〇日目の夕食、〇〇日目の朝食）して、食材をまとめて入れておく必要があることを再度確認してください。

また、コンロを1台しか持ってきていない学校が多数ありました。たとえ1台で調理が可能なメニューであっても、1台のみでは作業効率や手順が悪くなるだけでなく、不具合が生じたときに加熱調

理が一切できなくなってしまう危険性があります。必ず2台以上持参するようにしてください。

セパレートタイプのガスコンロを持参している学校で、コンロ台を使用していないところが見られました。セパレートタイプのコンロは熱源が接地面に近いため、燃え移ったりすることがあります。それを防ぐため、コンロ台を必ず使用するようにしてください。

VI. 気象 (7点)

1. 天気図作成 (5点)

書きなれているチームとそうではないチームで、相当な差が出ました。書きなれているチームはラジオからの情報は正確に記入されているので、各種記号のサイズや等圧線の間隔など、見栄えのある天気図の作成をさらに意識してください。

2. 設問 (2点)

毎年、登山部報の統一学習資料を基に出題しています。事前学習を怠らないようにお願いします。

VII. 知識 (5点)

一の鳥居の下山口を問う問題は、全体の3分の2ぐらいのチームが正解でした。エスケープルートのことを考えると、全てのチームで事前にしっかり確認しておいてほしいところです。また地図記号の問題は、全体的に正答率が低くなりました。地図記号や登山用語、救急にかかわる知識はより安全快適な山行につながります。体力トレーニングとともに知識面のトレーニングも日ごろから心がけましょう。

VIII. 計画・記録 (10点)

1. 計画 (6点)

[観 点] 学校名・緊急連絡先・メンバーの生年月日・保護者氏名と連絡先・
共同装備分担者の記載・予備食の記載・医薬品リスト・日程表・
手書き概念図・断面図

基本的なところはどのチームもしっかりとできていました。

今回特に気になったのは「概念図」です。まず、尾根と谷はその山域を理解するためにはとても大切です。省略せずに詳しく書く意識を持ちましょう。特にルート近辺の尾根・谷に関しては、行動においても大きな影響があります。大切にしましょう。また、縮尺のずれも多くの高校で見られました。

25000分の一の地図をもとに作成した後に、縮小コピーをすると縮尺は変わります。注意しましょう。

また装備は、計画時においても詳細に書くことを心がけましょう。特に予備食と医薬品は、緊急時においてはとても重要なものとなります。使用方法やその内容について意識するためにも計画書において詳細に書きましょう。

2. 記録 (4点)

[観 点] 各地点の地点名・通過時刻・天候・体調・主な動植物・記事

昨年まで8地点の記録をピックアップして審査の対象としていましたが、今年は競技の中断・再審査ということもあり、2日間のコースの中から以下の4地点を選び、審査の対象としました。

①飯綱東高原オートキャンプ場 ②墓のある分岐 ③五社権現奥ノ院跡 ④1368m分岐

山行記録は、後々の登山計画の参考にすることを意識して記載をするものですから、「スタート地点」「ゴール地点」や各フラッグ番号の表記は不適切です。スタートは「飯綱東高原オートキャンプ

場」とするなど、適切に記載してください。また山頂では、標高・三角点・眺望なども記載してください。主要な分岐点などもきちんと記載して、次の山行に役立つ記録となるよう心がけてください。

Ⅸ. マナー・自然保護

[観 点] 大会のルール，趣旨にのっとり審査

計画書の審査において、同一校内のチーム間で概念図をコピーして共用しているチームがあり、減点しました。ルール違反となりますので注意してください。自然保護については特に問題ありませんでした。